

令和元年度

# 病虫害発生予察特殊報(第1号)

令和元年6月28日  
神奈川県農業技術センター

病虫害名：オウトウショウジョウバエ（学名：*Drosophila suzukii* (Matsumura)）  
作物名：ブルーベリー

## 1 発生経過

農林水産省の依頼を受けて行った輸出植物検疫協議の迅速化事業の中で、神奈川県における発生状況を確認するため、相模原市内のブルーベリーほ場から、果実を平成30年6月上旬、7月上旬の2回、各100個ずつサンプリングした。25℃の恒温庫で10～14日間静置したところ、ショウジョウバエ類の成虫が羽化した。この成虫を横浜植物防疫所へ同定依頼した結果、本県ではこれまで未確認のオウトウショウジョウバエと同定された。

## 2 形態および生態

### (1) 形態

雌成虫は体長3mm弱、暗黄褐色、雄は後方に向かって多少とも暗色となり、翅頂近くに小黒紋を有する。雌の尾端にある産卵器の下縁には、鋸歯状突起が並ぶ。雄の前脚ふ節第1節の先端には5本前後の明瞭な櫛歯状の突起(性櫛)が1列に並んでいる。卵は乳白色、長径0.5mm内外の1対の糸状突起を有する。幼虫は体長約6mmに達し、白色のウジ状。

### (2) 生態

寄主植物はオウトウ、キイチゴ、クワ、ブルーベリーなど約20種が知られる。関東地方での発生回数は年間10回程度であり、成虫は落葉下などで越冬する。卵から成虫までの発育日数は15℃で約30日、22℃で約14日、25℃で約10日とされている。発育に必要な最低気温(発育零点)は約9℃である。

## 3 被害および分布と寄主植物

### (1) 被害

ブルーベリーでは、成虫が果皮を破って果肉内に産卵し、幼虫が果実内を食害する。産卵は完熟直前に限られ、未熟果への産卵はほぼ無い。この性質上、収穫後に室温で保管した果実で、幼虫の寄生、成虫の発生で購入者からのクレーム被害となる。ブルーベリーでは、小果を大量に収穫するという性質上、産卵痕などを確認して選別するのは困難である。

### (2) 分布と被害報告

日本全国および朝鮮半島、中国東北部、タイ、ミャンマー、インドに分布する。国内では栃木県のブドウ、千葉県のブルーベリー、徳島県のヤマモモ、福島県のオウトウ、ブルーベリー及びブドウにおいて被害報告例がある。

#### 4 防除対策

- (1) 本種は殺虫剤の感受性が高いと考えられる。収穫前日まで使える剤が複数あるため、これらを収穫開始前に散布すれば防除可能だと思われる(表1)。
- (2) 未収穫落果は発生源となるので、できるだけ除去する。
- (3) 収穫した果実を常温で保管しない。

(写真)



図1 オウトウショウジョウバエ成虫(♂)  
翅の先端部分に特徴的な黒点がある。



図2 オウトウショウジョウバエ成虫(♀)  
翅の先端部分に黒点が無い。

表1 神奈川県病害虫雑草防除指導指針(平成31年)でブルーベリーのオウトウショウジョウバエに登録のある剤

RACコード	剤名	使用時期	使用回数	希釈倍率
3A	アディオフロアブル	前日	2回	2000倍
3A	スカウトフロアブル	前日	2回	3000倍
4A	モスピラン顆粒水溶剤	前日	1回	4000倍
5	ディアナWDG	前日	2回	5000~10000倍

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>